

	評価計画				自己評価				学校関係者評価	改善計画		
	中期経営目標	短期経営目標	達成のための方策	評価指標	目標値%	アンケート			結果と課題の説明	コメント	改善策	
						教職員	生徒	保護者等				
1	生徒一人ひとりの学力の向上	授業の質の充実	授業公開、研究協議の実施	授業公開、研究協議ができ、授業改善につながったと考える教員の割合	80	88		A	計画どおり校内、市内の学校での授業に積極的に参加し授業改善に繋げることができた。			
2		家庭学習の充実	家勉ノートの実施 目標時間（1時間）の設定・提示	家庭学習が1時間以上できている生徒の割合	70	63	68	49	C	生徒、保護者ともに学年が上がるにつれ割合が増えている。1年での取組を考えたい。生徒1年52%2年70%3年78% 保護者1年31%2年57%3年67%	3年の目標時間が1時間は少なすぎる。3年は部活が終わってからスイッチが入る。ちょっとしたきっかけでスイッチが入る。もっと早くからの習慣化が必要である。	学力調査結果から30分から1時間の学習時間の生徒が多い。目標時間1時間以上を決めて生徒に伝える。2、3年生は、学年によって目標時間を増やす。
3		ICTを活用した取組の推進	タブレットドリルの活用 各教科等での活用	ICTを活用した授業を受けている生徒の割合。	70	100	58	84	B	1年生はタブレットドリルに取り組んだので割合が高いと考えられる。生徒1年64%2年43%3年63%	生徒はタブレットやスマホをどんどん使っている。小学校の時から使っている。これから必要なものなのでしっかり使えるように指導してほしい。	3年生の全国学調では週3回以上学校で使っている割合が60%であった。全学年タブレットライブの活用で活用率を上げていきたい。
4		計画的な進路指導の実践	学級活動での進路学習、進路面談、進路希望調査の計画的な実施	年間指導計画に従って、進路指導ができたと考える割合	80	100	64	85	B	入試制度も変わり、1年からの取組を行い、早めに進路に対する意識を高めていく必要がある。生徒1年48%2年60%3年77%	1年生の市内高校見学は、早い段階から地元の高校を知る上では大変良い取組である。KFGなど地元の企業訪問も将来を考える上で参考になる。	島根県の入試制度の改定にはうまく対応できた。来年度は進路相談、テスト前の学習計画表の活用、1年生の高校訪問に力を入れたい。
5		自己実現を図るキャリア教育の推進	体験的な学習の充実	地域に関わる学習の実施 ふるさと教育の実施 探究の過程を意識した指導	探究の過程を取り込んだ学習のできた割合	80	100	76	A	体験的な学習は実施しているが、自分たちの課題としてとらえて実施する必要がある。生徒1年58%2年95%3年83%	職場体験学習は大変効果的である。子供は働くことは大変だということを学んだ。1、2年生の時にも体験ができるとうい。	コミュニテースクールのメンバーに商工会の方も入ってもらうので、連携して職場体験学習の取組を充実させたい。
6		学級活動・生徒会活動の活性化	常時活動や清掃活動の充実	常時活動や清掃がきちんとできている割合	80	88	97	A	それぞれが責任をもって学校や学級の自分の役割を果たしている。			
7		基本的な生活習慣の確立	あいさつ、返事、くつろへの呼びかけ	あいさつ、返事、くつろえができていると考える割合	80	88	98	80	A	生徒会選挙の立会演説会でもあいさつの大切さが訴えられていた。挨拶がしっかりでき、明るく気持ちの良い学校になるとよい。		

8	生徒一人一人を大切に する生徒指導・特別 支援教育の推進	主体性を育てる常態的・先行的生徒指導の推進	生徒指導の実践上の4視点(①自己存在感の感受、②共感的な人間関係の育成、③自己決定の場の提供、④安心・安全な風土の醸成)での全教育活動での取組	左の4視点を取りこんで授業、行事、学級経営、部活に取り組んだと考える割合	80	100	95		A	全職員で生徒の自己有用感の醸成に取り組んできました。家庭にもPTA総会でお願いをしました。2月に返ってくる県学力調査で結果を確認したい。	苦手なことの克服ばかりでなく、自分の長所、好きなこと、得意なこと、これを頑張らせることが大事である。ほめて育てることが大事である。ほめるときにはみんなの前で、叱るときには呼び出して。家庭でもいいところはしっかりほめてもらうとよい。	学力調査の結果でも自己有用感が上がってきている。引き続いて取組を行い、学校評議員さんから話していただいた「ほめて育てる」を全教職員で実践していきたい。保護者には家庭でも実践してもらうように呼びかけたい。
9		多様な学びの場における教育環境の充実	特別な支援の必要な生徒、不登校・不登校傾向の生徒、1人1人の生徒に応じた対応	1人1人の生徒への対応ができていると考える割合	80	100	94	74	A	担任一人では対応がなかなか難しい。組織での対応が必要である。関係機関も交えたケース会議も必要である。昨年度より保護者の割合が20%増加している。	不登校がすべて悪いとは思わない。原因を明らかにして対応できるものには対応して、次の進路につながっていくとよい。就職して大成功している人もいる。	支援の必要な生徒には、担任から家庭訪問や電話でこまめに情報提供を行い、生徒や保護者との良い関係を築いて、保護者と共通の認識で取組を行う。
10	ふるさとに誇りを持ち、大切に する生徒の育成	地域の教育資源を活用したふるさと教育の推進	まちづくりセンターと連携した体験活動の実施	体験を通して金城町が好きになり、金城町の良さや課題が分かった生徒の割合	80	100	94	97	A	計画通りにふるさと教育を実施し、成果を上げることができた。来年度も継続していきたい。	地域の人が学校へ行きやすくなった。協力的な地域の人も増えてきた。学校にいろいろなことを頼みやすくなっている。	コミュニティスクールがスタートするので、今までの活動がさらに充実するようにコミュニティスクールを機能させていきたい。
11		地域行事・地域ボランティアへの参加	地域行事・地域ボランティアへの参加	金城町のために何か貢献してみたいと考える生徒の割合	80	100	73	54	B	1年生が基左衛門W、全学年の希望者がさざんか祭りのボランティアとして参加してくれた。各まちづくりセンターの行事等にも多く参加してくれると良い。	だんだん中学生の地域行事への活動への意識が高くなってきている。中学生が頑張っているという意見が参加者からよく出るようになった。	各まちセンの行事の時には、中学生をボランティアとして使ってもらうように働きかけていきたい。
12	家庭・地域との連携	学校評議員会、民生委員連絡会等地域との連携	学校評議員会、民生委員連絡会の実施	学校、それぞれの機関が連携できていると考える割合	80	100			A	地域の方にお世話になり連携して多くの成果を上げることができた。		
13		各種たより、HPによる情報発信	学校・学年便り等の定期的な発行 学校HPの定期的な更新 メール配信による情報提供	学校の活動の内容や様子がわかったり、適切な時期に情報が得られたと考える割合	80	100	96	95	A	保護者の皆さんから、アンケートの記述欄で意見をいただいたものには、校内で検討して改善していきたい。スグールでの情報発信が効果的である。	学校だよりはカラー版を送付してもらい、学校の様子がよく分かった。スグールは便利で効果的に活用してほしい。	

0~10ポイントマイナス
11ポイント以上マイナス